

石井町高原小学校 山川 友貴

1 はじめに

本学級の多くの児童は図画工作の時間を楽しみにしているが、題材によってアイデアが浮かばなかったり、自分の表現に自信がなく手が止まったりする姿が多く見られる。それは、つくりたいイメージは決まっているが、表現方法や表現材料を考えたり、思い浮かべたりする経験が少ないということが原因ではないかと思われる。本研究では、上記の課題解決に向けて「であい」・「つたえあい」というキーワードをもとに授業実践を行い、分析・検証を行うこととした。具体的には、題材や材料、人（教師や友達）、自然などの「であい」を大切にしたい。そして自分の思いやイメージなどを周りの人に伝えたり、表現方法や内容、作品などを交流させたりしながら、「つたえあい」を工夫することで研究主題の解明に迫った。

2 指導の実際

題材『目が覚めたら無人島に～自分のすみ家～』〈A 表現（2）工作・B 鑑賞〉

- ①目標
- ア 自然材の特徴を生かし、材料と材料を組み合わせて適切な接着方法でつくったりすることができる。
 - イ 自分のすみ家をイメージしながら、材料集めや材料の選択をし、つくるための見通しをもって表すことができる。
 - ウ 楽しく意欲的に無人島での自分のすみ家をつくり自他の作品のよさに気付くことができる。

②実践内容

- | | | |
|-----|------------------------------|--------|
| 第一次 | 無人島の様子を基にアイデアスケッチをする。 | ・・・1時間 |
| 第二次 | 作品づくりに必要な材料を集めに行く。 | ・・・1時間 |
| 第三次 | 材料のつけ方や配置の仕方を工夫し、自分のすみ家をつくる。 | ・・・5時間 |
| 第四次 | 本題材を振り返り、自他の作品を鑑賞し合う。 | ・・・1時間 |

3 結果と考察

（1）題材との「であい」

①表現内容との「であい」の工夫

本題材での自分のすみ家をつくるにあたって、パワーポイントを使って、無人島に漂流した様子を共有し、自分の置かれた状況をイメージできるようにした。すると「雨風から身を守れる家をつくりたいな」「動物に襲われても安全な家がいいかも」「一人でさみしいから楽しい気持ちになる家がいいな」など島の様子から自分のつくりたい家の様子を想像し、主体的に活動する姿が見られ、児童の表現意欲も高めることができた。

②表現方法との「であい」の工夫

自分の思いを具現化しやすくするために、アイデアスケッチに取り組んだ。本学級では、自分の思いを絵で表現することが苦手な児童が多かったので、イメージを言葉で表現してもよいことを

伝えた。すると、絵をかくことに苦手意識をもっていた子供たちも「石でがんじょうな壁をつくる」「屋根は葉っぱでつくって雨から守れるようにする」など自分の思いを言葉で表現することができていた。このように児童の思いやイメージを教師が的確に理解し、把握することで一人一人の子供への適切な支援につながるのではないかと思われる。

③表現材料との「であい」の工夫

本題材で使用する主な材料は、すべて自然材（木・葉・実・石など）をつかうこととし、校内や近隣の神社で自分に必要な材料を集めた。あらかじめ自分のつくりたい家のテーマが決まることで、「この石、動物から守る柱になりそう」「もっといい色の葉はないかな」とアイデアスケッチを基に、自然材の形や色・質感など、自分のイメージに合った材料を集める姿が見られた。材料を自分で集めることで、感性や想像力が働き、創作意欲を高めることにつながった。

(2) 「つたえあい」による発想や構想の能力の高まり

①表現内容の交流の場の設定

机の配置を工夫することで、友達の作品をいつでも見合うことができるようにした。その結果、「それいいね。どうつくったの?」「うまいな。教えて!」と作品のよいところを見つけ、共感的にかかわることができた。自分と違った発想や表現の工夫に気づき、グループ内で自然と対話が生まれていた。児童たちは、友達との対話・作品との対話の中で表現の幅を広げ「この表現いいな」「もっとこうしたい」と材料と向き合い、自分の思いを実現しようと作品をつくりかえていた。友達との対話によって、作品に対する自分の見方や感じ方が深まったと考える。

②表現方法の交流の場の設定

製作の2時間目以降、授業の最初に自然材の特徴を生かした発想や、材料の組み合わせ方に特徴のある児童の作品を意図的に紹介した。接着方法としてグルーガンしか使っていなかった児童も「こんなやり方があるのだな」と新たな発想や表現方法に気づき、「結ぶ」「重ねる」「しきつめる」など、イメージに合った接着方法を自分の作品に取り入れていた。このように、作品をつたえあう場を意図的に設定することで、新たな表現方法や発想・構想を高めることができた。

(3) 表現することへの自信を深めるために

本実践では、制作過程で考えたことや思ったことをワークシートに記入し、写真とともにポートフォリオを行い、自分自身の振り返りに活用した。言葉だけのワークシートでなく写真があることで、作品が完成に近づく様子を視覚的に振り返ることができた。自分の製作過程が目に見えてわかることで、自分なりの成長やよさや可能性に気づき、次の学習への意欲にもつながった。自分との対話をくり返すことで、表したいことや表し方について考えることもできた。

4 おわりに

本題材では、「であい」「つたえあい」を工夫することで、児童たちは表現内容や表現方法・表現材料の3つの要素と豊かにかかわり、単元を通して主体的に取り組むことができた。また、周囲の人とのかかわりや自分との対話を通して、発想や構想の能力を高めることにもつながったと考える。

今後も児童一人一人が自信をもち、表現内容や方法などを交流する中で、自らが思考・判断・自己決定し楽しみながら自分らしい表現活動をしてほしいと願っている。